

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	教室紹介 東邦大学形成外科学講座
別タイトル	Introduction of Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Toho University, Faculty of Medicine
作成者(著者)	荻野,晶弘
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(3). p.136 137.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021 020
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD56201086

教室(診療科)紹介(125)

教室紹介 東邦大学形成外科学講座

東邦大学医学部形成外科学講座

主任教授(佐倉): 林 明照

教授(大森): 荻野晶弘

講師・医局長(大橋): 平田晶子

医局長(大森): 中村りさ

医局長(佐倉): 山崎 俊

教室の沿革

本学における形成外科診療は、1977年、東邦大学付属大森病院(現医療センター大森病院)に慶應義塾大学形成外科から田井良明先生(久留米大学名誉教授)と丸山優先生(本学名誉教授)が交代で週1日の外来診療から始まりました。その後1981年に、丸山優先生が東邦大学医学部外科学第2講座に講師として赴任され、1989年4月に形成外科研

究室を独立開設し、1992年に丸山優先生が初代主任教授に就任、1993年には医学部形成外科学講座へと発展しました。1996年に付属大橋病院に形成外科を開設、2000年には付属佐倉病院に形成外科を開設しました。2001年には第10回日本形成外科学会基礎学術集会、2009年には第52回日本形成外科学会総会・学術集会など多くの形成外科関連学会を主催しました。2012年からは大西清先生が、東邦大学三病院(医療センター大森・大橋・佐倉病院)の2代目主任教授となり、2020年からは林明照先生が主任教授、荻野晶弘が医療センター大森病院形成外科教授に就任し、医療センター三病院および関連病院にて診療、研究、教育を展開しています。

診 療

林明照教授の専門である顔面神経麻痺の再建では、遊離神経血管柄付き筋移植術(健側顔面神経に神経縫合)、および低侵襲な島状側頭筋移行術(Lengthening Temporalis Myoplasty)による笑いの一期的再建を行っています。前者ではオリジナルの大腿二頭筋短頭を用いた遊離移植術を開発し、対称的な自然な笑いの再建を行っています。後者では確実に早期の笑いを獲得でき、顔面に瘢痕を残さない新たなアプローチ法を開発し、小児から高齢者まで幅広く適用し、良好な結果を得ています。医療センター佐倉病院形成外科ではとくに、顔面神経麻痺に対する「笑いの再建や顔のバランスの再現」、腫瘍切除後の局所皮弁を用いた「顔面の再建」、眼瞼下垂形成術など、顔面外科治療を多く



第52回日本形成外科学会総会・学術集会主催時の医局員集合写真(2009年)



第22回日本形成外科手術手技学会主催時の医局員集合写真（2017年）

手がけています。また大森病院でも顔面神経麻痺の治療では林明照教授に来ていただき、専門的な治療を提供しています。荻野晶弘教授は、顔面外科と再建外科、難治性創傷の治療を専門としており、医療センター大森病院形成外科では、ナビゲーションシステムを応用した顔面骨骨折治療や、乳房再建、頭頸部再建、顔・手足の先天異常、陰圧閉鎖療法（Negative Pressure Wound Therapy：NPWT）を用いた難治性創傷治療を主に行っています。

医療センター大橋病院形成外科では、糖尿病や閉塞性動脈硬化症、末梢循環障害などを原因とする足病変の治療と予防を目的にフットケア外来を開設しており、平田晶子講師を中心として形成外科医、循環器内科医、腎臓内科医、義肢装具士の各専門分野のスタッフが連携して診療にあたっています。

研究

以下に示す臨床研究に加え、基礎医学講座においても骨髄間葉系前駆細胞を用いた次世代型血管新生療法の基礎的解析などの研究を行っています。

1. 皮弁血行と神経支配の解剖学的研究
2. 顔面神経麻痺の笑いの再建・評価に関する研究
3. 四肢再建に関する研究
4. 創傷治癒（難治性皮膚潰瘍、組織移植）に関する研究
5. 眼瞼下垂症に関する研究
6. 側頭部皮膚軟部組織に関する解剖学的研究
7. 表情筋と咀嚼筋の相互作用に関する研究
8. 難治性創傷治療に関する研究
9. 皮弁再建手術における血流視覚化・数値化による評価に関する研究

10. ナビゲーションシステムを用いた顔面骨手術の術中整復位評価に関する研究
11. ナビゲーションシステムを用いた陳旧性顔面骨骨折骨切り評価に関する研究
12. 経時的血流量評価による遠隔皮弁切り離し時期の検証
13. 陰圧閉鎖療法に関する研究

教育

東邦大学の医学部学生、東邦大学医療センター三病院の研修医に対して形成外科学の教育を行っています。医学部学生にはM3での形成外科学、救命医学（重症熱傷）の講義、またM4-6の学生臨床実習指導、シミュレーションラボを利用した縫合実習指導を行っています。卒後教育としては、初期研修医、専攻医に対する形成外科診療・手術の指導を行っています。整容的改善はもちろん、機能的改善も重視し、患者さんが満足する結果を提供できる形成外科医を育成していきます。

最後に

教室のモットーは、「楽しく仕事を！」で、患者さんの治療に際しては、自分の家族であったらどのように治療するか、患者さんの立場になって良く考え、手術では工夫して、「よりきれいに、正確な手術を！」を常に考えて臨床、教育を行っています。医局員の人数は少ないですが、全員が‘one team’となり、関連他科とも連携し、患者の満足が得られる最先端の医療を提供できるように日々精進しています。

（荻野晶弘）

DOI：10.14994/tohoigaku.2021-020